

♪越谷アコーディオンサークル「かえるのこ」30周年記念コンサート ぶらり訪問記♪

後援 NPO 法人 日本アコーディオン協会

日 時 2010年6月12日(日)13:00 開演
会 場 越谷市北部市民会館 劇場
講 師 松永 勇次 / 柴崎 和圭
特別ゲスト 津花 幸嗣



初夏を思わせる一日、「かえるのこ」の30周年記念コンサートに出かけてみました。埼玉県を走る東武伊勢崎線の車窓からは、田植えを終えて間もない水田が広がり目にも優しくさわやかな風が流れていました。

下車した「大袋」駅は、かつて日本のうたごえ祭典の合同合奏練習(ぶどうぞの幼稚園)の際降りたことのある思い出の駅です。

プログラムは3部に分かれていて、第1部は全員合奏によるオープニング「アホールニューワールド」に続き独奏が2曲、「人生のメリーゴーランド」「ピガール」。アンサンブルが3曲「パリの屋根の下」(アコ四重奏)、「モランゴレゲエ」(アコ五重奏)、「アンディフェランス」(アコ二重奏)でした。

第2部は、うた声コーナー「かえるの合唱」(輪唱で)「青い山脈」「四季の歌」「たんぼぼ」をみんなで歌い休憩に入りました。

第3部は、講師演奏で松永勇次氏、柴崎和圭氏、特別ゲストの津花幸嗣氏の3人で「インザムード」、2曲目はオリジナル曲と「サーカスの思い出」(写真上)柴崎氏のコメントでは、にぎやかな忙しい曲で、最後は3人とも走り出すので手拍子して欲しいけれど遅れないように…と言われただけあってめちゃくちゃ指が動くのにはただただ感心するだけでした。身体全体でリズムをとり、身体から音が出ている演奏でした。

講師演奏に続き、アンサン

ブル3曲「キネマの天地」(アコ四重奏)、「オブリビオン」(アコ三重奏)、「グローリア」(アコ四重奏)。独奏4曲「ヴィオレッタに捧げし歌」、「愛のあいさつ」、「ムーランルージュ」、「コーボランマズルカ」が交互に、最後は全員合奏「アムール河の波」(写真下)でした。

「キネマの天地」は、叔父さんチームが大人のムードでとのコメントのように、男性の四重奏で、200人ちょっと入りそうなホールのほぼ満席な客席の後ろまで力強い音が届いていました。

「グローリア」は曲を聴けばああ、あの曲かと聴き覚えのある曲で、賛美歌の曲です。2分程度のゆったりした曲でしたが、パイプオルガンのような音色と音の重なりがとても新鮮でした(編曲は柴崎和圭氏)

越谷アコーディオンサークルの特徴は、アンサンブル(重奏)がいくつも聴けることで、仲間同士で音を聴きあい楽しんでいることが伝わってきます。ドイツ留学を終えた津花幸嗣氏の活躍と合わせて「かえるのこ」のますますの活躍が期待されます。(乙津:記)



